

## スポーツマンシップとレジリエンス (修復力)

講師 広瀬 一郎

NPO法人「スポーツマンシップ指導者育成会」理事長  
スポーツマン総合研究所所長



講師 広瀬一郎 氏

現在、「教育の再生」問題が注目されているが、日本における教育問題として一番深刻なのは、「学力問題」ではなく「人格陶冶」の場がないことではないのか。東日本大震災から3ヶ月、「人災」問題が大きく目立った。しかし、「人災」問題の解決のために動く者は少なく未解決となっているため、同じことを繰り返す可能性が高い。「人災」問題は教育によって解決すべきであり、教育関係者が積極的に発言する必要があるのではないか。「人災」に対応すべき「教育」で育成すべき能力は、どのようなものが必要か。物理的な力などではなくスポーツをすることで内面から育てることが重要である。スポーツに関わる指導者が動かなければ、この「人災」は解決しないだろう。スポーツの指導で、「勝つために」「正しい努力」を教えていくことにより、スポーツマンになっていく。私たちのよく使う、「スポーツマンシップに則って」の本当の意味をしっかりと理解させる必要がある。その意味

を理解させないまま指導をしている人が多いのではないか。現在、メディアの情報の入れ代わりが激しいことで、言葉の持つ意味がしだいに薄くなっている。これは、日本のスポーツ界の大きな問題である。これを解決しない限り「人災」や体罰などの問題は、なくならないだろう。そのためには、国を挙げて改善する必要がある。スポーツは、言葉の持つ深い意味を体感できるものであり、自分の言葉や動きなどさまざまなものが混合するものである。スポーツマンシップは、多くの点でレジリエンスと共通している。

19世紀初期ごろ世界を制覇したイングランドでは、植民地の経営に必要な「健康」「勇気」「知性」「決断力」「誠実」などの人材をパブリックスクールによって生まれ、優秀な人材が多かったことで「疲労の知らない帝国」と呼ばれていた。スポーツを「ゲーム」として取り入れることで、遊びを通して人間を形成するものとした。スポーツによる教育は、「男らしさ」「紳士の振る舞い」「他者に対する尊重」「忍耐」「勇気」「独立心」「自制心」「決断」などのジェントルマンとしての社会的資質の鍛錬を育み道徳や性格の形成に役立つ。健全な社会を構成するメンバーに必要な社会的資質を持つことで「人災」のリスクが低減される。これらのことから現在日本におけるスポーツの役割として人材教育の重要性を認識すべきである。そのために、スポーツマンシップの意味を理解させると共にスポーツにおける教育に力を入れることで、「競技力の向上」にもつながり、同時に「体罰」の抑止にもつながるだろう。また、思ったことと行動の伴う人材をスポーツを通じて育てる。行動力と勇気を持った人材を育てることでナショナルレジリエンス（日本の復興力）を高める運動を進めるべきである。